

学 内 往 来

2017年度上智大学社会福祉研究・藤井達也教授退職記念号をお届けします。本号よりWEB版（電子化）となりました。より多くの方に活用していただける内容を目指していきたいと思えます。

藤井先生とは12年間本学で一緒にすることができました。本学科の精神保健福祉分野を引っ張り、社会福祉学専攻主任として大学院教育の発展にもご尽力いただきました。いつも穏やかなトーンで学科内のまとめ役に徹していただいたこと、深く感謝いたします。

なお来年度より栃本一三郎先生、大塚晃先生は特別契約教授になられ、新たに障害福祉分野の准教授をお迎えする予定です。

今年度、学部卒業生は63名、大学院博士前期課程修了者は5名でした。心に残る出来事としてはつぎの2点があります。8月に卒業生とともに『福祉が世界を変えてゆく—社会の課題に取り組む現場の声—』（SUP上智大学出版）と題する本を刊行したこと。昨年は本学科設立40周年（社会学科社会福祉学専攻創設50周年）という節目の年で、それを記念してさまざまな現場で活躍する卒業生20名の声を集めました。卒業生からの発信は面白く力強いものがあり、社会福祉の学びや実践の魅力が詰まった本に仕上がっています。

また、12月18日には「教皇フランシスコと話そう」という、日本で初の企画が催されました。パチカンと四谷キャンパスを映像回線をつなぎ、本学や上智学院が運営する学校の学生・生徒が教皇様と直接対話をする機会でした。会場の6号館101教室は来場者で満席となり、教皇様の謙虚で温かなお人柄と現代社会の課題に向かう熱い思いが伝わり、実に感動的な空間となりました。なかでも、「出世や成功だけを追い求める教育は、人を成長させるどころか、小さくしてしまう。知性、感情、労働を調和させることが必要。教育には他者に奉仕するという視点がなければならない」と語られたことが印象的でした。イエズス会の大学で働ける恵みを大事にしたいと思えます。

編集責任 伊藤 富士江（社会福祉学科教授）